



四谷一丁目遺跡 遺跡発掘だより その弐

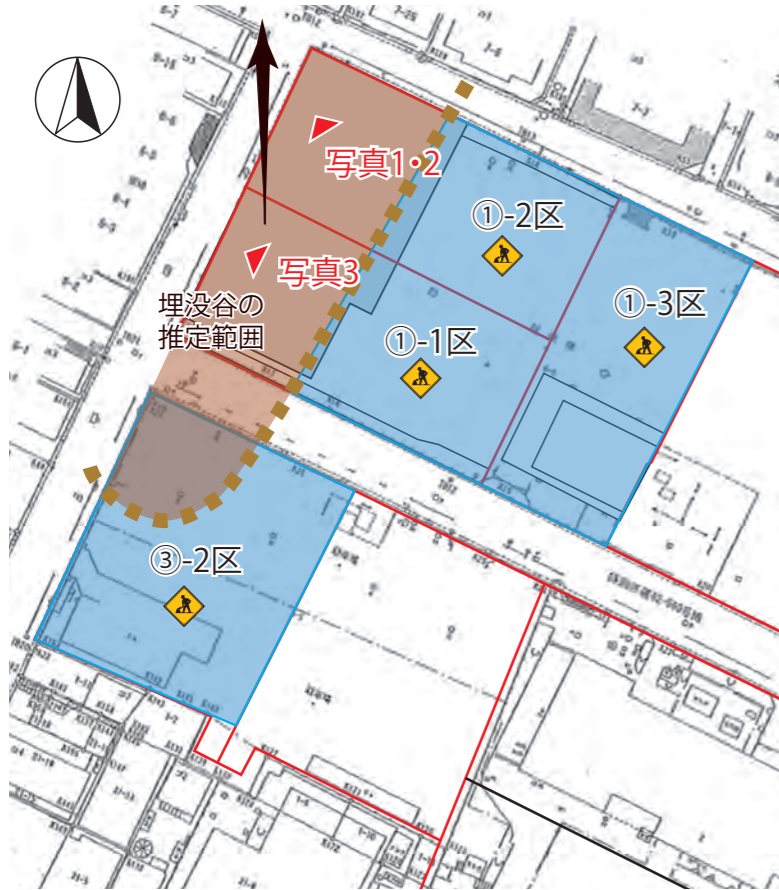
谷を埋めて、江戸の町屋がつけられた!

いまの地形からは想像しにくいですが、かつては靖国通り（旧「紅葉川」）に連なる谷が敷地北西側に入り込んだ地形で、最深3m以上の谷埋め盛土によって形成された平坦地であることがわかりました。

寛永13年（1636年＝約380年前）、將軍徳川家光は大名に命じて江戸城外堀を開削します。発見された谷埋め盛土は、この「外堀普請」と前後して行われた四谷周辺の街区整備に伴って行われた造成工事と考えられます。

そして、外堀完成から2年後の寛永15年（1638年）、現本塩町の前身である「四谷塩町一丁目」の町屋が、この地に設けられました。

靖国通り(旧紅葉川)方面へ傾斜



【遺跡発掘調査範囲図(1/1000)】

- 発掘調査中の範囲 (2015年4月22日現在)
- 谷部の範囲

お知らせ

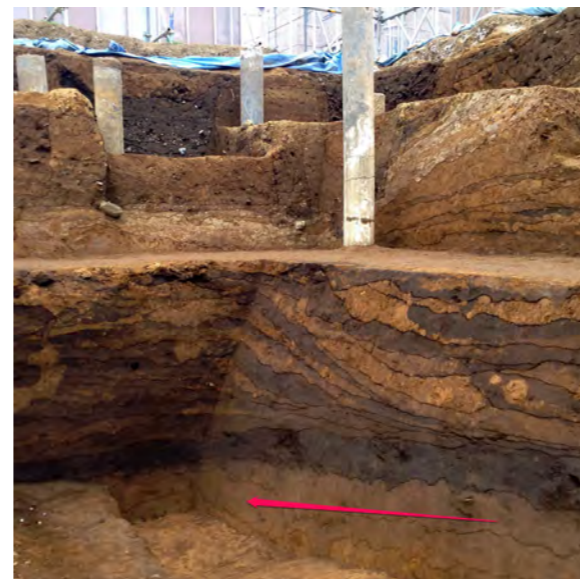
「遺跡見学会」を開催します。

(5月末～6月初めころを予定)

詳しい日時は、次号の「遺跡だより」でお知らせします。



【写真1】

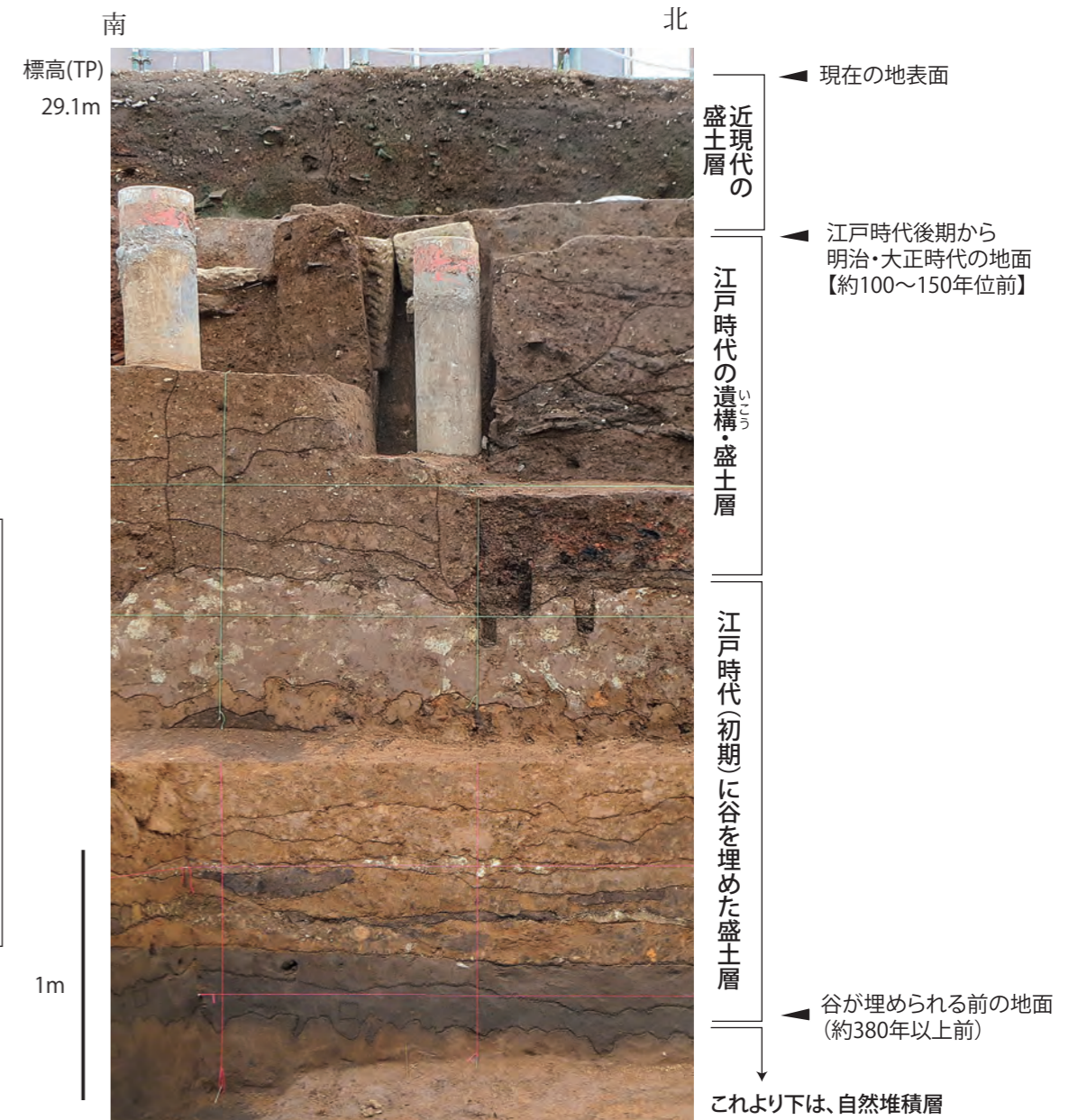


【写真2】

谷を埋めた江戸時代の盛土層（①-2区西側）

谷の傾斜に沿って盛土を行い平らな地面が造成されたあとから、四谷塩町一丁目の町屋に関わる遺構が発見されました。

- * 谷が埋められる前の旧地形は、「矢印」方向へと緩やかに傾斜。
- * 白い柱は、現代の建物の基礎杭。



【写真3】江戸時代の遺構と谷埋めの盛土層（①-1区西側）